

## 現代日本の翻訳出版文化事情最前線

日本の翻訳出版界の最前線で活躍中の堀千恵子さん（翻訳家）と、多数の翻訳家と翻訳出版者を世に出し、翻訳出版ビジネスを展開する柴田耕太郎さん（カリスマ教育者・経営者）をお招きし、具体的な体験を基調とする現代日本の翻訳出版文化事情の最前線を語っていただきます。おふたりの講演に対して中村有以さん（翻訳家）と菊地祥子さん（翻訳家）から手短なコメントをいただきます。それらの講演とコメントをたたき台にして、参加者を含む全員で全体討論を行います。

幕末明治初期以降、日本の文学・科学・思想は、西洋の翻訳出版文化に大きく依存し、その功罪を含め多大な恩恵を受け、現在に至っております。その長い歴史を有する現代日本の翻訳出版文化事情の最前線はいかなるものかを学びます。多数の方々のご来場をお待ちしております。なお、この企画は、私が 40 年以上もの長いお付き合いの友人柴田耕太郎さん（株：アイディ社・会長）の全面的な支援により実現するものです。同氏に厚く感謝と御礼を申し上げます。（猪野）

●日時：2013 年 9 月 14 日（土）午後 2 時～6 時

●会場：藤沢産業センター（藤沢NDビル）7 階 第 1 会議室

〒252-0052 藤沢市藤沢 109 番地（湘南NDビル7階）

電話 0466-21-3811 JR・小田急藤沢駅（北口）徒歩 2 分

<http://www.cityfujisawa.ne.jp/center.html>

●参加費：1,000 円

●連絡先：猪野修治（湘南科学史懇話会・代表） 〒242-0023 大和市渋谷 3-4-1

TEL/FAX 046-269-8210 e-mail [shujiino@js6.so-net.ne.jp](mailto:shujiino@js6.so-net.ne.jp)

湘南科学史懇話会 <http://www008.upp.so-net.ne.jp/shonan/home.htm>

●講師：堀千恵子さん（翻訳家）

□講演：「翻訳はひとつの創作である」を実践するために——その醍醐味と苦勞

□概要：「翻訳は創作と違ってオリジナリティーがないから、表現もそれなりにしかない」。そんな甘えを振り払うために私がしたこととは？ 科学書翻訳の舞台裏を作品ごとに紹介しながら、「ふつうだったら触れるこのとのない、未知の世界を知ることができる」という翻訳の醍醐味と、その影にある「読み物」として昇華させるまでの産みの苦しみを伝えます。

□プロフィール：1981 年熊本女子大学（現、熊本県立大学）英文科卒、文芸書、科学書、人文書など守備範囲が広く、これまで 30 作近くの単独訳にて上梓。『だから片づかない。なのに 時間がない。』（ダイ

ヤモンド社、2004年)は、12万部のヒット作。現在翻訳専業。

なお、同氏の感動的なエッセー「自分色の花」(当日、別紙配布)を参照されたい。

#### □翻訳書

- ・オリソン・S・マーデン『オリソン・マーデン 成功の原理原則』(ダイヤモンド社、2012年11月)
  - ・J・P・テロツテ『ディズニーを支えた技術』(日経BP社、2009年9月)
  - ・ジョー・サッター; ジェイ・スペンサー『747—ジャンボをつくった男』(日経BP社、2008年3月)
  - ・マーティン・リース『今世紀で人類は終わる?』(草思社、2007年5月)
  - ・リチャード・テンプラー『なぜか出世する人の仕事のルール—「できる人」より、「ふさわしい人」になれ』(ダイヤモンド社、2006年12月)
  - ・マリリン・ポール『だから片づかない。なのに時間がない。—「だらしのない自分」を変える7つのステップ』(ダイヤモンド社、2004年6月)[12万部のヒット作品]
  - ・デボラ・アナポール『ポリアモリー —恋愛革命』(インターシフト[発行]、河出書房新社[発売]、2004年2月)
  - ・ジョン・J・レイティ『脳のはたらきのすべてがわかる本』(角川書店、2002年3月)
  - ・シア・コルボーン; ダイアン・ダマノスキ; ジョン・ピーターソン・マイヤーズ『奪われし未来[増補改訂版]』(増補改訂部分訳、翔泳社、2001年1月)
  - ・ジェニファー・ロバートソン『踊る帝国主義—宝塚をめぐるセクシュアルポリティクスと大衆文化』(現代書館、2000年10月)
  - ・ミダス・デッケルス『愛しのペット—獣姦の博物誌』(工作舎、2000年6月)
  - ・ローレンス・M・クラウス『SF 宇宙科学講座—エイリアンの侵略からワープの秘密まで』(日経BP社、1998年7月)
  - ・ジュディス・リーブス-スティーブンス; ガーフィールド・リーブス-スティーブンス『アート・オブ・スタートレック』(ジャパン・ミックス、1998年2月)
  - ・マーク・トウェイン『王子と乞食』(ニュートンプレス、1997年8月)
  - ・デビッド・コックス作・絵『はじめてのおどり』(新世研、1997年1月)
- ◎科学関連では過去にSF映画雑誌『ヘッドプラス』(ジャパン・ミックス)や科学雑誌などで翻訳を担当。

## ●講師：柴田耕太郎さん(翻訳教育者・経営者)

### □講演：「翻訳業界概観」—職業としての翻訳

#### □概要

##### 1 翻訳業界小史

- ・戦前：国家運営のための翻訳から知識・教養のための翻訳へ
- ・戦後：大衆に身近な翻訳から一大産業へ

##### 2 翻訳の分野

- ・分野により訳し方は異なる
- ・産業翻訳、出版翻訳、映像翻訳、舞台翻訳

### 3 翻訳の対価

- ・タダから1億円まで
- ・料金の算定基準

### 4 翻訳の評価

- ・「人民の人民による人民のための政治」は悪訳か
- ・誤訳と悪訳の違い

### 5 翻訳者に必要なもの

- ・文法力、論理力、教養力、表現力
- ・そして営業力

□プロフィール：1973年早稲田大学文学部仏文科卒。フランス滞在を経て演劇活動。1981年（株）アイディ代表取締役。2008年同社会長。アイディ英文教室主宰、獨協大学外国語学部講師。産業・出版・映像・舞台の四分野で実績ある翻訳者。出版翻訳者を40名以上デビューさせた教育者。翻訳ベンチャー・アイディを、自社ビルをもつ中堅企業に育てた経営者。翻訳業界全体を俯瞰できる日本でただ一人の人物。柴田耕太郎主宰『英文教室』（<http://www.wayaku.jp>）は、一点の曇りもなく英文を読み解く「翻訳ジム」を開催する。

### □主要な著訳書

- ・柴田耕太郎『翻訳家になる方法』（青弓社、1995年11月）
- ・同『英文翻訳テクニック』（ちくま新書、1997年2月）
- ・同『翻訳家で成功するー徒弟修業からインターネット・オーディションまでー』（工作舎、2000年5月）
- ・同『翻訳力錬成テキストブックー柴田メソッドによる英語読解』（日外アソシエーツ、2004年4月）
- ・同『翻訳家になろう！』（青弓社、2012年）
- ・マーク・バクスター『ロック・シンガーー 間違いだらけの発声法ー』（東亜音楽社、1997年2月）
- ・ミハエル・トス・パトリック・ブシニヤック『ブレヒト』（現代書館、1998年4月）
- ・『フランス現代演劇傑作選』（演劇出版社出版事業部、2001年3月）

## ●コメント：中村有以さん（翻訳家）

2003年、国際基督教大学卒。2004年（1年間）、片道2時間半以上もの時間をかけ、柴田耕太郎主宰『英文教室』『翻訳ジム』（東京）に学ぶ。第一線で活躍する翻訳家。単訳・共訳合わせて15冊以上の翻訳書がある。音楽・芸術を得意とする。

#### □翻訳書

- ・『BBC20 世紀クロニクル』 vol.1～vol.4（アルク、2006～2007）
- ・『LIFE MICHAEL 1958-2009』（ライフ誌編、ディスカヴァー・トゥエンティワン、共訳、2009）
- ・『ヴァンパイアアカデミー』 1、2（リシェル・ミード著、ソフトバンク文庫、2009、2010）
- ・『特攻 空母バンカーヒルと二人のカミカゼー米軍兵士が見た沖縄特攻戦の真実』（マクスウェル・テイラー著、ハート出版、2010）
- ・『レディー・ガガのすべて』（モーリーン・キャラハン著、ソフトバンククリエイティブ、2010）
- ・『サミー・ヘイガー自伝 RED 俺のロック人生』（サミー・ヘイガー、ジョエル・セルヴィン著、ヤマミュージックメディア、2012）
- ・『ONE DIRECTION 5人の物語～夢みたステージ～』（ダニー・ホワイト著、カンゼン、2013）
- ・『クラフトワーク』（デヴィッド・バックリー著、シンコーミュージック、共訳、2013）

#### ◎その他

- ・雑誌『ENGLISH JOURNAL』（インタビューコーナー翻訳）（アルク、2008年4月号～毎月）
- ・英語学習教材翻訳（アルク）

### ●コメント：菊地祥子さん（翻訳家）

2004年イギリス、バースSPA大学卒業。英検1級、通訳ガイド免許、TOEIC980点の「英語資格三冠王」。メーカー製品開発部にて仕様書等の翻訳に携わる。現在、2013年度：柴田耕太郎主宰『英文教室』の全日制「翻訳ジム」に在籍中。